

研究・研修報告書

2026 年 8 月 7 日

小牧市議会議長 様

会派名 こまき民主市議団
代表者氏名 小沢 国大

研究・研修の結果を報告します。

記

1 参加議員

小沢国大、諸岡英実

2 日程

2026 年 7 月 29 日（水）

3 研究・研修名

小牧市ふれあいの家親子通園施設 あさひ学園

4 主催者

小牧市ふれあいの家親子通園施設 あさひ学園

5 会場

小牧市ふれあいの家親子通園施設 あさひ学園

6 視察の目的

あさひ学園事業について理解を深め、小牧市の児童発達支援に関する構造的課題を把握し、展望を検討する為。

7 主な内容

別紙参照

8 所感・提言・課題等

あさひ学園は、昭和 49 年に集団経験をさせたいという保護者の思いから発足。発達や子育てに支援の必要な乳幼児とその保護者の方への「発達支援」と「家族支援」の場である。親子で通い、子どもの課題に合わせた「小集団の保育(療育)」の中で、日常生活の基本的な動作や運動の力、人と関わる力を育めるよう支援している。専門職や専門機関とも連携し、相談支援も実施し、切れ目ない相談支援に努めており、支援が必要なこどもにと

って安心できる安全基地である、父母と一緒に通うことが出来る場所という点が有益。家族支援も重要な柱として位置づけており、両親自身がしんどさや特性を抱えているケースも多く、精神面で追い込まれている母親も増加している。生活リズムの立て直しも支援の柱の一つだ。特にあさひ学園は「じぶんでやってみようとする気持ち」を1～2歳のうちに育むこと、親子関係の再構築・見直し支援を支援の目的の一つとしていることが大きな特徴である。診断書が不要であり、あさひ学園への入園に医療機関の受診が必須条件ではないこと、保健センターとの連携により、療育支援の入口としての通いやすさに直結している。

近年の傾向として、共働き世帯の増加により週一回の通園者、保育園との並行利用の児童が多くなっており、クラス編成と職員配置のレジリエンス強化が課題となっている。保護者自身が特性を持っている場合や、メンタルクリニックに通院中であるケースも多く、相談支援ニーズは増加しているが、人材不足が課題である。0～2歳保育料無償化以降、早期に預けてフルタイム勤務をする保護者が増加したことで「このままでは就学に間に合わないかもしれない」との不安から週一のあすなろ教室に通園する例が増えている。特に2歳児クラスの人数が急増している。保護者への支援ニーズが特に高く、アンケートやインタビューを実施するたびに「もっと話を聞いてほしい」「向き合ってほしい」との声が繰り返しかれる。職員体制の充実が今後の大きな課題として繰り返し言及された。

通所支援のみならず、相談支援について、市として手厚い支援ができるよう児童発達支援の中核をなす児童福祉法に基づく拠点を早急に確立すべきと考える。